

おつとめ

■楽曲データ

歌詞：「正信念仏偈」より

楽曲：中田喜直 作曲

発表：浄土真宗本願寺派保育連盟

初演：－

初出：－

管理番号：M0047

■創作の経緯

音楽を用いた幼児用のおつとめ「幼児のおつとめ」の一部。1978（昭和53）年、中田喜直（1923～2000）によって作曲された。『音楽礼拝－正信念仏偈による』にも採用されている。なお、「幼児のおつとめ」に回向等を追加し、音楽法要としての次第を整えたものが、『音楽法要おしょうしんげ』である。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：

校訂の詳細：特記事項なし

■解説

保育連盟は1982（昭和57）年、音楽を通して豊かな宗教的情操を育むことを目的に、「幼児のおつとめ」を制定しました。《おつとめ》はその一部で、歌詞は「正信念仏偈」冒頭二句と念仏で構成されています。

◆作曲家について

中田喜直さん（1923～2000）は、昭和を代表する作曲家のひとりです。日本語の持つ抑揚やリズムの繊細な扱いにすぐれ、彼の作品を耳にしたことがない人はいないであろうほど、数多くの作品を生み出しました。仏教音楽の分野では、「幼児のおつとめ」の他、《ありがとう》《ふれあるき》などの仏教讃歌が今日でも愛唱されています。

◆演奏のヒント

「幼児のおつとめ」として演奏する場合は、保育連盟で定められた作法に従い、曲を通して全員で、合掌して歌います。詳細は、保育連盟のテキスト『真宗の教えとまことの保育』（本願寺出版社、2014年）をご参照ください。

一方、音楽礼拝の一部として歌う場合は、「帰命無量寿如来」の1回目は調声人が、2回目は同音となります。4回繰り返される念仏は、すべて同音で歌います。

また、「帰命（きみょう）」や「無量寿（むりょうじゅ）」の「う」は、「きみょー」と長音（直前の母音を伸ばす）として発音します。『聖歌・讃歌集』では、このような場合は「（う）」と表記しています。

◆楽譜・資料など

伴奏譜は、『聖歌・讃歌集』第1巻（本願寺出版社より刊行）に掲載されています。

音楽法要で用いる楽曲の選び方については、本願寺仏教音楽・儀礼研究所ニューズレター『仏教音楽』第12号に特集として掲載していますので、ご参照ください。下記URL、QRコードからご覧いただけます。

http://j-soken.jp/files/nl/nl_012.pdf

